

## 会 議 録

会議の名称	地域福祉計画進行管理委員会												
開催日時	平成23年11月8日(火) 午後3時30分 開会 ・ 午後5時00分閉会												
開催場所	市役所 4階 入札室												
議長氏名	松 下 庄 一												
出席委員氏名	<table style="width: 100%; border: none;"> <tr> <td style="width: 50%;">松下 庄一</td> <td style="width: 50%;">亀谷 容子</td> </tr> <tr> <td>茂木 勇夫</td> <td>景山 恵美子</td> </tr> <tr> <td>齊藤 熊平</td> <td>橘 裕子</td> </tr> <tr> <td>小岩井 國昭</td> <td>栗原 正明</td> </tr> <tr> <td>下里 隆子</td> <td>橋本 康夫</td> </tr> </table>	松下 庄一	亀谷 容子	茂木 勇夫	景山 恵美子	齊藤 熊平	橘 裕子	小岩井 國昭	栗原 正明	下里 隆子	橋本 康夫		
松下 庄一	亀谷 容子												
茂木 勇夫	景山 恵美子												
齊藤 熊平	橘 裕子												
小岩井 國昭	栗原 正明												
下里 隆子	橋本 康夫												
欠席委員氏名	青山 友子                      伊藤 祐一												
説明者の職氏名	生活福祉課 課長 瀧澤 雅美												
会議次第	別 紙												
配布資料	資料1-1    資料2												
事務局職員 職氏名	<table style="width: 100%; border: none;"> <tr> <td style="width: 50%;">生活福祉課 課長 瀧澤 雅美</td> <td style="width: 50%;"></td> </tr> <tr> <td>生活福祉課 主幹 有山 真弓</td> <td></td> </tr> <tr> <td>生活福祉課 副主幹 神山 幸彦</td> <td></td> </tr> <tr> <td>社会福祉協議会 次長 新藤 勇</td> <td></td> </tr> <tr> <td>社会福祉協議会 副主幹 石川 孝司</td> <td></td> </tr> <tr> <td>社会福祉協議会 主査 利光 容子</td> <td></td> </tr> </table>	生活福祉課 課長 瀧澤 雅美		生活福祉課 主幹 有山 真弓		生活福祉課 副主幹 神山 幸彦		社会福祉協議会 次長 新藤 勇		社会福祉協議会 副主幹 石川 孝司		社会福祉協議会 主査 利光 容子	
生活福祉課 課長 瀧澤 雅美													
生活福祉課 主幹 有山 真弓													
生活福祉課 副主幹 神山 幸彦													
社会福祉協議会 次長 新藤 勇													
社会福祉協議会 副主幹 石川 孝司													
社会福祉協議会 主査 利光 容子													

## 会 議 録

発言者	発 言 内 容
	第2回会議の議事録署名人は、齋藤委員となりました。
	議 題
	議題の(1)地域福祉計画進行管理について、資料No.1を基に事務局説明
	入間市地域福祉計画 取り組み評価一覧
下里委員	<p>会議に先立ちまして、皆様にお話したいことがあります。実は、本日通夜があり会議の途中で失礼することになるのですが、先日知的障害のある方が亡くなりました。その方のご両親に会ってお話したのですが、その中でご両親も知らない方が沢山、その方の死を哀しんで声を掛けてくれたそうです。ご両親も知らない所で、その方は沢山の人達と交流をもち、大変よい関係を築いていたのでした。一つの例として、その方は近所のおばあちゃんのゴミ出しの手伝いを毎日のように続けており、おばあちゃんは、大変助かっていたそうです。また、おばあちゃんの「助かるわ」の声がその方の励みにもなっていたようで、毎朝早く起きることができるようになったそうです。このようなお互いに「助け、助けられる」関係が地域コミュニティーの原点であると感じました。</p>
橋本委員	市と社会福祉協議会の関係はどうなっているのですか。
瀧澤課長	地域福祉計画の冊子を見ていただくと、その中に、「地区活動計画を作っていきます。」というのがあります。この地区活動計画が社会福祉協議会が地域で実際に活動していくための行動計画になります。
栗原委員	入間市の地域福祉計画と社会福祉協議会で作る地区活動計画がひとつになって、入間市の地域福祉が進められていくことになります。
橋本委員	市は、社会福祉協議会に対して、「ああやれ、こうやれ」という権限はないのではないのでしょうか。
瀧澤課長	権限はありません。
栗原委員	<p>公共が税金を使って、市民の面倒をみるというのが公助の部分で、それで全て解決できれば問題は無いのですが、現代においてはそれだけで全てを解決できない状態になってきている。自分自身でやれることはやる。これが自助の部分です。その間にもう一つあるのが、共助という部分です。その共助の部分の代表になるのが社会福祉協議会だと思います。ただ、共助の部分が社会福祉協議会だけであるというのではなく、先程の障害をお持ちの方とおばあちゃんとの関係も共助だと思います。市と社会福祉協議会との関係はお互いに命令形とかお金を出す、もらうという関係でもないのです。そこが、また地域福祉計画のまどろっこしい部分でもあります。理念が先に立ち、お金の裏づけがないから実際の行動は別になるというようなことになるのです。そこが非常にまどろっこしいのですが、我々は市内にどのような団体があり、どのような行動をしているかを把握して、その行動について議論する</p>

## 会 議 録

発言者	発 言 内 容
	<p>ことができるのが望ましいのだとは思いますが。本来この席に市・社会福祉協議会だけでなく、色々な活動している団体がいて、その活動を発表できるまでになるのが望ましいと思います。</p>
茂木副委員長	<p>資料2にある、東藤沢の取り組みはすばらしいと思う。市や社会福祉協議会も東藤沢のような取り組みをどんどん実施してくださいという投げかけをすべきではないでしょうか。</p>
松下委員長	<p>私の地元の東藤沢では、26.5%と非常に高齢化率が高く、色々な問題が出てきている。一つの例ですが、ある高齢者が家の電球を取り替えたいのだが、それができない。どうすればよいのかという相談が公民館に寄せられているのを聞いたことがありました。誰かが、電球を替えてあげれば済むことなのですが、では誰が替えてあげればよいのだろうかと考えたのが地域の問題を考えるきっかけにもなりました。そんな中、平成21年4月に地域包括支援センターが東藤沢公民館の前にできました。地域包括支援センターは介護の関係の仕事をするところですが、地域包括支援センターに高齢者の電球の玉替えの話をしたら、この問題を一緒になって考えていきたいと思いますということになりました。そこで、まず地域包括支援センターの「地域を考える会」として、まずどこの地区にどのような問題があるのかを調べることからスタートしました。そこに様々な団体に参加してもらい、それぞれの地域ごとの問題点を出しあうことから始め、会合を重ねてきました。実際にやっていくうちに様々な問題点も出てきましたが、とにかく皆で進めていこうということでやっています。</p> <p>現在、各地域の様々な情報を集めるために、地域福祉員を配置したらどうだろうかということを議論しています。ただし、民生委員との関係をどうしたらいいだろうか等、様々な課題があり、まだ論議が深まっていません。また、運営の基本について、助成金はあるのか、利用料金はどうするのか等まだ決定していません。会員は誰でも受け入れるかの問題もあります。具体的には、先日も会議で話が出たのですが、「病院に行きたいので送迎をお願いします。」との依頼を受けたとした場合、その方の息子さんが脇で洗車をしていた場合でも送迎をするのか等、何でもかんでも依頼されたら受け入れるのかということもあります。この辺はある程度利用できる枠を決めた方が良さだろうということで今議論しているところです。このように様々な課題はありますが、近所の状況を見た場合、どちらでも痴呆が進んでいる方がいる等、このまま放っておくと、どうしようもない町になってしまうのではないかと危惧しています。皆が安心して暮らせる町をどうしたらつくれるか、待ったなしの問題だと思っています。</p>
茂木副委員長	<p>仕事が休みの土日だけ、「さあ何か地域の方々のために出来ることをやろう」としている訳ではなく、日常の生活の中で、何かできることをやっけていこうと感じました。</p>
亀谷委員	<p>家庭保育室で、近所を散歩していて、おばあちゃんが子どもたちに「ねこじゃらし」の作り方を教えてくれたりします。高齢者が子どもたちに「今度、遊びにおいでよ。」等、声を掛けてくださるのです。高齢者が子どもたちの中に入り、子どもたちが高齢者の中には入るというような試みができれば良いと思います。東藤沢の取り組みを見ても、日常の身近な出来事に助け合いの思いがあり、心強く嬉しく思</p>

## 会 議 録

発言者	発 言 内 容
	いました。子どもたちも東藤沢の取り組みに参加できると良いと思いました。
松下委員長	直ぐにでも何か実践できるというものではないのですが、皆で現状把握、問題点の共通認識をしてからというのが出発点だと思います。
茂木副委員長	一言でいうと、隣近所で助け合っていきましょうということだと思います。親切の押し売りもよくないし、日常生活の中で、皆で助け合える環境をつくるのが自治会長の役目であると思いますが。
松下委員長	お互いに助け合える社会を目指しています。ひと昔前のような隣近所が何の取り決めがなくても自然に助け合える社会ではなくなっている。
茂木副委員長	田舎の方に行けば、子どもたちが、誰にでも自然にあいさつをしてくれる所もある。誰もが顔見知り、声を掛け合う状況が都会ほどなくなってきたと思う。
斉藤委員	地区社協の事務局をどこに置くかという問題があります。地区社協の進捗状況はどうなっていますか。
新藤(社協)	地区社協を立ち上げるという方向性は示しましたが、実際にはそれ以上進んでいません。現在、社会福祉協議会では近隣助け合い運動を実施している。この近隣助け合い運動を広げていく方向で考えています。この運動が地区社協へと発展していけるよう考えていますが、実際には運営費・人件費・場所代等の問題があります。各地区ごとに課題は様々でこれに対応していくには専門のアドバイザーが必要だと考えます。このため、市に予算要求しているのですが、なかなか予算がつかないというのが現状です。そうは言っても予算がつかないから何もしないという訳にはいきませんから、現在の職員で、他市の状況を把握し、進んでいる所のよい所を取り入れて実施していこうというのが現在の状況です。
栗原委員	私は、地域福祉計画の策定段階から携わってきましたが、地区社協という言葉はあまり使いたくなかったのですが。地区社協というと、地区社協が上にあり、実際の活動部隊が社協の下部組織のように思えてしまう。ただ、全国的に地区社協という言葉が定着しつつある状況であえて違う言葉を使用すると混乱する恐れもあるので、地区の社協という言葉に落ち着いた。地域の社協的な存在があれば、よいのです。まさに、東藤沢の取り組みがこれにあたるものだと思います。入間市の中でも昔の良い要素が残っている地区で自然に隣近所の助け合いが出来ているところも問題ない。問題は、これらの要素がなくて、何も進まない所にリーダー的存在を求めているのです。
	我々進行委員会は、このように各地区リーダー的存在のもと、様々な取り組みが行われているところをここは、問題ないね。ここは、取り組みが遅れているから社協さん頑張ってよと言えるようになるのが望ましいと思います。
斉藤委員	社会福祉協議会が各ボランティア団体の情報を一番持っている存在だと思います。また、職員もいます。東藤沢のような強力なリーダー的存在が各地区にいれば問題ないのですが、現状は違います。社会福祉協議会に実際に事務所から出て行って各地区のリーダー的存在になってもらいたい。身近な問題は、その近くに居て初めて把握し、それに対応できるものだと思います。

## 会 議 録

発言者	発 言 内 容
橋本委員	地域ごとの高齢化の問題等様々な問題があると思いますが、それを一番把握している存在は誰ですか。
新藤(社協)	社会福祉協議会もそれにあたりますが、市にも様々な福祉部署があります。社会福祉協議会と市はどちらもその両輪となっていくべきだと思います。そこで、9地区全てで一斉にスタートとないかない状況です。そのためにも、市に対して予算要求をして、現状ではひとりでもいいから専門のコーディネーターをお願いしています。現在の社会福祉協議会の職員だけでは、通常の業務があり、これに対応するのが難しいと思います。
松下委員長	9地区全てで一斉スタートできるとは考えていない。地区それぞれで様々な課題があるので、早く進む所とそうでない所もあると思います。まず、出来ることは何かの現状把握をして、出来る所からスタートして行けばよいと思います。地区社協の事務所をどこにすればよいかの問題が解決すれば出来るというものでもないと思います。実際に活動しながら考えればよいと思います。
橋委員	各地区に様々な団体は存在する。ただし、それが行政と同じように縦割りの存在となっている。これを横の繋がりとなるよう手助けするのが、社会福祉協議会であり、行政であると思います。
栗原委員	大震災を通して、様々な活動にもものすごく役立つ存在が中学生だと思いました。現在、私は入間市介護保険をわかろう会と高齢者福祉課と一緒に「認知症サポーター養成講座」を開催しています。実際に中学校で開催しているのですが、子ども達に認知症について知ってもらい、このことが福祉の入口になると思っています。
橋本委員	中学生への「認知症サポーター養成講座」の取り組みはすばらしい。まさに、このような活動を皆さんに現在広めていくという段階ではないでしょうか。
小岩井委員	自治会にも様々な実情がある。自治会長も現状でも非常にやる事が多く忙しい現状であります。東藤沢のような強力に進めていくリーダーばかりなら問題ないのですが、実際には難しい点もあると思います。
斉藤委員	様々な有力団体があるが、それが残念ながら縦割りの存在となっている。非常にもったいないと思います。それを横に繋がった存在にしていけたらと思います。
瀧澤課長	議題の(2)その他に入らせていただきます。 当初の会議で、年2～3回会議を開催しますとお伝えしていますが、本日の内容をまとめて、出来れば来年2月頃に今年度最後の会議を開催したいと考えています。その中で、年度としてのまとめを市長に報告することになっていますので、会議の事前に今年度のまとめをお配りします。それをご覧になっていただき議論していただきたいと思います。
	平成23年12月20日
	議事録署名人      委員長 松 下 庄 一
	委員 齋 藤 熊 平